



平成31年3月2日

川西町議会議長 加藤 俊 一 殿

川西町議会共栄会

代 表 齋 藤 修 一

行政視察調査報告について

行政視察調査を実施したので、その内容を別紙のとおり報告いたします。

平成 30 年度共栄会会派研修報告書

平成 30 年 12 月 19～21 日

齋藤修一

鈴木清左衛門

遠藤章一

加藤俊一

平成 30 年度共栄会会派研修報告書

平成 30 年 12 月 19～21 日

1 研修地・出席者

① 愛知県豊橋市 愛知大学

出席者	越知専氏	愛知大学	本間喜一先生顕彰会	名誉会長
	藤田佳久氏	愛知大学	名誉教授・理学博士	
	岩崎正弥氏	愛知大学	地域政策学部教授	(農学博士)
	功刀由紀子氏	愛知大学	地域政策学部教授	(農学博士)
	田辺勝巳氏	愛知大学	豊橋研究支援課	課長
	中野貴文氏	愛知大学	広報課長	
	中野憲一氏	愛知大学	豊橋総務課	地域政策室
	竹下貴信氏	東愛知新聞社	企画部	

② 愛知県豊橋市市役所

出席者	佐原光一氏	豊橋市長		
	藤原孝夫氏	豊橋市議会議長		
	伊藤篤哉氏	豊橋市議会副議長		
	森田教義氏	豊橋市議会事務局局長		
	越知専氏	愛知大学	本間喜一先生顕彰会	名誉会長
	竹下貴信氏	東愛知新聞社	企画部	

③ 東京都町田市役所

出席者	若林章喜氏	町田市議会議長	東京都市議会議長会会長	
	佐藤和彦氏	町田市議会副議長		
	佐藤伸一郎氏	町田市議会議員		
	古谷健司氏	町田市議会事務局長		
	佐々木健氏	町田市議会事務局調査法制係長		

④ 衆議院議員鈴木憲和東京事務所

出席者	田中辰明氏	鈴木憲和衆議院議員秘書		
	佐藤あい氏	鈴木憲和衆議院議員秘書		

2 愛知県豊橋市 愛知大学の概要

① 豊橋市の概要

豊橋市は、東に弓張山系を境に静岡県と接し、南は太平洋、西は三河湾に面しており、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた人口約 38 万人、市域面積 261.86 平方キロメートルの愛知県第 2 の都市です。

主な産業の農業は、豊川用水の豊かな水と温暖な気候に恵まれ農業が大変盛んに行われています。露地野菜、果樹、園芸作物、稲作など多種多様な作物が栽培されているほか、日本一の飼育羽数を誇る養鶉を始め、養豚、養鶏などの畜産も盛んで、全国トップクラスの農業産出額を誇る山地となっている。

また、地場産業においては「筆」「刺子」「帆前掛」などがある。なかでも「豊橋筆」は伝統工芸士により伝えられる国指定の伝統工芸品であり、現在もほとんどが伝統的な技法による手作りで、書道用を中心に工芸用、日本画用など高級筆のシェアでは全国の約 70% の生産量を誇っています。

工業においては、明治以来の繊維工業、木材、木製品工業と、昭和 10 年代から 20 年代にかけて急速に発展した食品加工と機械器具工業などを中心に発展しました。昭和 30 年代後半からは東三河工業整備特別地域の指定・三河港の重要港湾指定を弾みに臨界工業地帯の整備が進み、造船、金属、機械、自動車、電機、精密機械、化学繊維などの産業が進出しました。明海地区と神野西地区では、ドイツの化学メーカーを始め、欧州の自動車メーカー、ブラジルのシューズメーカーが相次いで進出し、豊橋港周辺は、多様な業種構造を特徴とする工業地域として発展を続けています。

② 愛知大学の概要

愛知大学は、1946 年（昭和 21 年）、東亜同文書院大学最後の学長本間喜一氏（川西町出身）をはじめとした東亜同文書院大学関係者が中心となり、横田忍豊橋市長の支援もあり、豊橋市の旧陸軍士官学校（旧陸軍第 15 師団）の跡地に、当時、中部地区唯一の法文系大学として創立されました。

創立にあたり、吉田茂内閣総理大臣に旧制大学として許可され、日本で第 49 番目の開学でした。

愛知大学は戦後混迷の時代、初代学長林毅陸氏、第 2・4 代本間喜一氏（川西町出身）、第 3 代小岩井浄氏らにより礎が作られ、愛知大学の「愛知」は「智＝知を愛する者が集う」を意味し設立趣意書には戦後創立された大学としては画期的な「国際的な教養と視野をもった人材の養成」「地域社会への貢献」が明記されています。

そして、帰国時に中国上海から持ち帰った東亜同文書院の学籍簿、成績簿が愛知大学に保管されています。

現在の愛知大学は、豊橋市以外にも名古屋市に駅南、車道両校を擁し在学学生は、1万人を数える。

本部事務所は、「愛知大学記念館」となり、「愛知大学東亜同文書院大学記念センター」を中心に、東亜同文書院史関係、生史料の規模は日本一の孫文関係、戦後の愛知大学史関係の展示を中心にガラ紡、考古遺物の展示なども行い、国内外から年間5千人ほどの来館者を迎えている。

3 愛知大学、豊橋市市役所での研修内容

- ① 愛知大学記念館を見学させていただき、愛知大学の歴史を学ぶとともに、川西町出身本間喜一氏の業績、偉大さを改めて知ることができた。
- ② 「本間喜一奨学金給付制度」に対する愛知大学の期待を感じるとともに、私たち議員（川西町）の期待を伝えることができた。
- ③ 豊橋市における生活費（アパート代等）は、山形県と比較し高額とはいえ生活しやすい環境と感じた。
- ④ 学力においては、学生の意欲の問題で大学の先生方も十分にサポートしたい旨の説明あり。
- ⑤ 豊橋市での研修においては、豊橋市の産業、環境の素晴らしさを改めて感じ、推薦制度で入学した学生が地元に戻らなくなるのではないかなどの心配が出るほどだった。
- ⑥ 「本間喜一基金」においては、推薦入学だけではなく豊橋市・川西町の交流事業等にも活用して欲しいと越知専氏の創設の意義を聞き、議会としても豊橋市との交流を深めたい旨を伝えることができた。

4 町田市の概要

東京都町田市は1958年に東京都9番目の市として誕生しました。当時の人口は、6万人程度でしたが交通網の整備等により、商業の集積や、多くの大学等がある学園都市として成長し、現在は43万人の人口を抱え更に成長をいいます。

市の産業は大部分を占めるのが商業であり、JRや小田急町田駅周辺には多数の店舗が存在しています。年間商品販売額は5,799億円を超え東京都市部に

おいては、5位になっている。

工業においては、立地条件の有利性として「東名高速道路が近く、都市に近い」「川崎や相模原等の工業集積地に近い」等が挙げられるが、水資源に恵まれていないこともあり、中小規模事業者の数が多く核となる大規模企業が少ないのが現状である。

町田市と川西町は町田市が「まちだダリア園」を建設する際に川西町からダリアの球根を贈ったのが始まりで交流が進んだ。特に東沢地区と町田市の交流は盛んで、「東沢やんちゃ留学」における山村留学で児童の交流が行われている

町田市の新庁舎は「市民協働スペース」の設置、「総合案内」の導入、「ワンストップサービス」の実現、「防災・災害復興拠点機能」の充実など、市民が安心して利用できる庁舎を目指して、2012年7月に開庁しました。

5 議会棟の研修内容

- ① 出入口の数・場所等については、市民と議員との動線の区別に留意されており、議員は本会議場から控室等に移動する場合廊下を経由しなくても移動できる配慮がなされている。また、答弁者の補佐のための入り口がある。
- ② 委員会室のマイクは無線を使用しているが、充電式のため充電時間・方法が課題である。
- ③ 議会本会議場においては、傍聴者が議員を前から見えるように、膨張モニターを設置している。
- ④ 議会本会議場・委員会室の椅子等の購入については、購入数を多くすることにより安価に購入している。椅子においては約75%引き等で購入した。

6 衆議院議員鈴木憲和東京事務所研修内容

衆議院議員鈴木憲和は山梨県に出張所で不在であったが、田中秘書・佐藤秘書との会談をする。国道113号線、国道287号線、新庁舎建設、基盤整備事業等の現状を説明し、国の予算等について説明を受ける。

7 視察研修の総括

愛知大学、豊橋市市役所での研修においては、本町出身の「本間喜一先生」の偉業を改めて知ることができた。越知専氏より寄付を頂いた「本間喜一顕彰基金」については、愛知大学への就学支援（奨学金の給付）と共に、本町と愛知大学との交流、更には豊橋市との文化交流等へと結び付けていかなければならない。そのためには、我々議員間の交流も深めていく必要があると改めて感じられた。

町田市での研修では、町田市の庁舎建設においては十分な検討を重ねて進められたために、多くの自治体が参考とした庁舎であり、本庁が建設予定している庁舎建設に向けても規模の違いはあるが、参考となる事柄が多い庁舎である。

特にデザインと利便性の問題、議場においては音響関係等の機能性、傍聴者への配慮として子供と一緒に傍聴できる部屋の設置、答弁者の補助員が対応できる場所の設置、また机、椅子等の購入においては大量に購入することで超安価に購入した事等、参考とすべき事柄が多く本町の庁舎建設が決定した段階で視察すべき庁舎だったと言える。

鈴木憲和衆議院議員事務所での研修においては、残念ながら代議士不在（山梨県に出張中）ではあったが、田中秘書・佐藤秘書と本町の道路整備、圃場整備、庁舎建設等の認識を共有することができた。

今回の視察研修において、受け入れていただいた愛知大学、豊橋市、町田市、鈴木憲和事務所の方々に感謝申し上げ視察研修の結びといたします。